

居場所づくり応援団 よろんごの木

高齢者や子育て支援

比角地区有志が立ち上げ

市内比角地区の住民有志が「心をつなぐ居場所づくり応援団 よろんごの木」



市内比角地区の住民有志が「心をつなぐ居場所づくり応援団 よろんごの木」

を立ち上げた。21日から開設する「ひだまりの家」（三和町、ロジィ・コート内）など今月から来月にかけて、地区内3カ所で居場所づくりを進めることになり、利用会員と合わせ、支え合い事業の「お助けマン」を募集中だ。これに先立ち、このほどプレイベントとして、東日本大震災の被災者支援の秋冬物衣料などの提供会を行い、活動を開始した。

「応援団 よろんごの木」は県の地域支え合い体制づくり事業の補助を受け、同地区のまちづくり事業実行委員の有志でつくる。吉田建夫さん、須田貴子さんなど……
「よろんごの木」が行った被災者支援の衣料提供会
会「比角」ミセン

発起人に、同地区の小学校にあり、シンボルとして親しまれたヨロンゴ（エノキ）の木から名をつけた。

事業は、「はじめの一步」として「ひだまりの家」は毎週月曜午前10時～正午（第1月曜・祝日除く）、30日から開設の「ハートフル」（東本町3、小さな絵本館サバト内）は毎週水曜午前10時～正午（祝日除く）で、それぞれお茶のみの会を築む。

また、活動本部となる「ほっとステーション」（長浜町、日吉神社隣民家）は12月10日からオープン予定で、毎週土曜午前10時～午後3時。昼食の持参ができる。利用料は1時間100円で、同月21日から毎月第3水曜にワンコイン夕食会（夕食別途500円）を

始める。ほかの2カ所の利用は無料だが、会員登録が必要。

このほど行った提供会ではいろいろな方面から物資協力を受け、市内に避難している人たちの橋渡し役を務めた。吉田さんらは「被災者支援も含め、地域近郊の子どもから高齢者までを対象にした居場所づくり、高齢者などの生活支援を目指していきたい」と話す。

募集の利用会員はお茶会や食事会などのミニディサロンに参加したい人、話し相手・家事などの手伝いをしてほしい人、子育ての手助けをしてほしい人など。年会費は2400円。お助けマン利用料はごみ出し、電球交換が1回100円など。居場所スタッフ、お助けマン、資金面での支援をする賛助会員の詳しい募集内容は「よろんごの木」仮事務局の比角「ミセン」内、電話24・7487、ファク21・4601へ。